

9月19日、ラグビーW杯2015イングランド大会、日本代表は1次リーグ初戦で過去2度の優勝を誇る南アフリカ代表に34―32で逆転勝ちし大金星をあげ、世界のメディアは「W杯史上最大の衝撃」と報じた。その後サモアと米国にも勝ち、日本は8度目の出場ですべて大会3勝を挙げた。

それに合わせて、歴史的勝利をおさめた日本代表選手31人のうち10人が外国出身であることも話題になり批判や疑問も。“国籍主義”のサッカーと違い、ラグビーの国際ルールでは“所属協会主義”を採用しており、3年以上居住などの条件を満たせば国籍が異なっても代表になれるからだ。「もう、信じられへんわ！」と大阪弁で喜びを表したニュージーランド出身の選手や、日本の高校や大学に通った選手たち、きっちと日本国籍を取得した人たちなど様々だが、日本語を話し、国歌斉唱のために君が代の練習も積んでいるというから微笑ましい。

聖書には“神の民”である国籍を持つイスラエル人と、そうでない外国人との区別が再三でてくるので、他の多くの宗教と同様に日本人からは敬遠されがちだ。だが意外にも、今から約3500年前に書かれた聖書で最も古い箇所には、

「一つの集会、一つの定め」民数記 15 章 15 節他、

と書かれており、「神を信じる者は誰でも救われる」というゴスペル(福音)の型が部分的にはあるがすでに示されていた。それから約1500年後に、人となって地上にやって来た神であるキリストは、その“旧い型”を刷新し

「キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。」

ローマ人への手紙 10 章 4 節、

とあるように、キリストが人類の罪のために十字架にかかった救い主であることを信じれば、誰でもイスラエル同様に神の国の国籍保持者となれる道を開いたのだ。あなたが何者でどこ出身かは全く無関係である。神の国の選抜チームに加わり、「もう信じられへん」ような恵みを味わい、神への賛美を斉唱しよう。 2015-10-9

